

「福井県大野盆地における水文調査・解析」

日程・時程

8月9日(日)

- 13:50 JR 越前大野駅集合徒歩で宿舎に移動、荷物を置く  
14:40～15:30 本願清水イトヨの里 視察 (<http://www.city.ono.fukui.jp/page/itoyo/>)  
15:30～16:00 移動  
16:00～16:30 大野城 視察 (<http://www.onocastle.net/>)  
16:30～17:00 移動  
17:00 宿舎  
18:00～19:00 夕食  
19:30～21:00 事前指導、実習内容の確認、班分け等

8月10日(月)

- 8:40 宿舎出発  
9:00～10:00 大野市役所  
大野市 岡田高大 市長 挨拶  
大野市湧水再生対策室 帰山寿章 室長 大野市における水環境保全取組に関する講義  
10:00～12:00 市内における湧水、地下水観測地点等の視察  
12:00～13:00 昼食(市役所)  
13:00～17:00 湧水調査、地下水調査、河川流量調査(班毎)  
17:30 宿舎  
18:00～19:00 夕食  
19:00～21:00 データ整理、調査結果のまとめ

8月11日(火)

- 9:00～12:00 湧水調査、地下水調査、河川流量調査(班毎)  
12:00～13:00 昼食(市役所)  
13:00～16:00 湧水調査、地下水調査、河川流量調査(班毎)  
16:30～18:00 データ整理  
18:00～19:00 夕食  
19:00～22:30 データ整理、調査結果のまとめ

8月12日(水)

- 8:30 宿舎発  
9:00～10:30 真名川ダム見学  
11:10 越前大野駅 解散(予定)

## 水文科学野外実験 A の報告

2015年8月9日（日）～12日（水）の3泊4日で、福井県大野市の大野盆地を中心に、筑波大学地球学類2年次生対象の水文科学野外実験Aを実施しました。参加者は、学生41名、ティーチング・アシスタント大学院生4名、教員1名でした。

8月9日の午後2時前に、JR越前大野駅に集合した後、本願清水イトヨの里を視察し、長谷川副館長から大野盆地の自然環境、歴史、地理、文化を始めとし、希少種であるイトヨの生態、学術的価値等について、講義を受けました。その後、大野城天守から大野盆地を一望し、盆地の全体像を視察しました。

8月10日は午前中、大野市役所を訪れ、岡田市長から歓迎と激励の挨拶を受けた後、湧水再生対策室の帰山室長から、大野市の水環境施策に関する講義を受けました。その後、同室の山田主査、下島氏の案内で、お清水（しょうず）と呼ばれる市内の湧水や、地下水位観測施設等を視察しました。8月10日午後から11日の午後にかけては、班に分かれ、市内の湧水や地下水位観測、簡易水質測定、大野盆地を流れる九頭竜川、真名川、清滝川、赤根川の流量観測・水質測定等を行いました。

河川の流量観測実習は、川の中に入り水深や流速を測るため、慎重に行う必要があります。流速が0.4 m/s程度になり、水深が膝を超えるようになると、足の運びを適切にしないと、転ぶ危険があります。まず、一人が対岸まで歩いて行き、そこで、巻き尺の一端をしっかりと保持します。続いてもう二人が、川の一方の岸から対岸まで、50 cm から 5 m 位の間隔で、繰り返し流速と水深を測定します。これを行うことによって、水圧や流速によって、人間がどの程度流されやすいのか、川底がいかに凹凸の多い形状をしているか等を、実感として知ることができます。

地下水位の観測では、観測用の井戸を周り、地表面から地下水面までの深度を測定します。簡単に単純な作業ですが、地下水面の深度と地形や地質条件との関係を、測定しながら感じることができます。

最終日の12日午前には、真名川ダムを視察し、4日間の実験を終えました。

本野外実験では、大野盆地における地下水、河川水等の循環プロセスに関わる水文科学的な調査手法を実地で学ぶのみならず、地域の水環境施策と学術的な水文特性との関連性や、政策と科学との関係を考察することができました。なお、野外実験の様子が福井新聞に取材され、8月11日の紙面に掲載されました。

実習の実施に際し、大野市産経建設部湧水再生対策室を始めとした大野市の方々には、全面的な援助と協力を頂きました。また大学院生のティーチング・アシスタントの諸君が、重要な役割を果たしてくれました。心から、お礼申し上げます。

（記録・辻村真貴）



大野市の岡田市長による挨拶（左）と帰山室長による講義（右）



地下水観測地点の説明と視察



河川流量観測実習の様子



真名川ダムの見学



実習を終えて（JR 越前大野駅前にて）

# 大野の名水 学生が調査

## 市依頼で筑波大41人 保全向け経路推定



湧き水の水质を調べる筑波大の学生。10日、大野市元町の七間清水

大野市の水循環プロセスを題材に野外実習をしよつと、筑波大の学生が同市を訪れている。10日は湧水や地下水、河川水について、市内で水温や酸性度を測るなど実地調査を行った。12日まで滞在し、湧水文化や市の地下水保全の取り組みを学ぶ。

同市は盆地の地形かという水循環がなされて、河川の水の一部が浸透して地下水を生成する。下水資源を守ろうと、市は、本願清水イトヨの里  
同大地球学類2年の41人が9日に大野市に到着し、同市元町や七間清水、同市元町など、5カ所を回った。気温や水温、酸性度、イオン濃度を温度計や専用の機器で測定。採取した水を大学に持ち帰って分析し、水が地下に浸透している地点や、流れる経路を推定する。

は2013年から、水循環プロセスの調査を同大に依頼している。学生が訪れたのは今回が初めて。  
同大地球学類2年の41人が9日に大野市に到着し、同市元町や七間清水、同市元町など、5カ所を回った。気温や水温、酸性度、イオン濃度を温度計や専用の機器で測定。採取した水を大学に持ち帰って分析し、水が地下に浸透している地点や、流れる経路を推定する。  
11日も引き続き市内で水の観測を行い、データを整理。12日は真名川を視察した。環プロセスの調査を同大に依頼している。学生が訪れたのは今回が初めて。  
同大の辻村真貴教授は「大野盆地は水資源として教育に生かしたい」と話していた。